

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 24 年度 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	高橋 健太郎	会員番号	0033027
申請者の所属・職名	千葉大学医学部附属病院 アレルギー・膠原病内科 医員		
出席会議名	AAI Immunology2012		
発表論文タイトル	IL-22 attenuates IL-25 production by lung epithelial cells and inhibits antigen-induced eosinophilic airway inflammation		

実施結果：

このたび平成 24 年度前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award を賜りまして、H24.5 月 4 日～8 日にボストンで開催された AAI Immunology2012 に参加させて頂きました。本学会には、アメリカのみならず世界中の著明な研究者が参加しておりました。

今回私は 5 月 5 日の Block symposium 「Th17 and IL-17 Family Cytokines, Th17/IL-17 Axis」のセッションで、「IL-22 が気道上皮細胞からの IL-25 産生を抑制することでアレルギー性好酸球性気道炎症を制御している」というタイトルで Oral presentation、また同タイトルでの Poster presentation を行いました。IL-22 はもともと Th17 より産生されるサイトカインと報告されましたが、skin-homing CCR10+CD4 T cell や、Th22、NKp46+NKcell など、様々な細胞より産生されることがわかってきました。また環境により pro-inflammatory あるいは anti-inflammatory な作用を発揮するなど興味深いサイトカインです。我々はマウスモデルを用いたアレルギー性気道炎症において、IL-22 が産生されること、さらにその source としては、一部は Th17 であるものの、大部分は Th1, Th2, Th17 ではない CD4T 細胞であること、そして気道上皮細胞上の IL-22R を介して IL-25 産生を抑制し、アレルギー性気道炎症を抑制していることを見出し報告しました。口頭発表後にはフロアより質問を多く頂き有意義な discussion が行えました。セッション後にも同分野の研究者より提案を頂くなど非常に有意義でした。また、同 symposium では J.J.O'Shea や D.Cua ら当該分野の著明な指導者を冠する研究室からの発表もあり、興味深い内容でした。なかでも自分のあまり知らなかった IL-27 についての発表が数個ありました。IL-27 は T-bet の維持による Th1 分化誘導および Th17 分化抑制機能を有し、自己免疫疾患や炎症性疾患などでの治療応用の可能性もあり、非常に面白い内容でした。なかなかその場において英語で質問することは難しく、同タイトルのポスターセッションの時間を利用して質問させて頂き、大変貴重な discussion を行うことができました。

以上のように、上記学会の参加により、自らの研究成果の周知、ならびに多くの有意義な情報や経験を得られました。岸本忠三先生をはじめ日本免疫学会の先生方、事務局の方々にこの場を借りて心より感謝申し上げます。